

令和5年度 大阪府立高津高等学校 第3回学校運営協議会 会議録

日時： 令和6年3月22日（金）18時00分～19時35分

場所： 本校校長室

出席者： 委員 森田 英嗣（大阪教育大学教授）

新崎 国広（大阪教育大学教授）

竹村 伍郎（NPO法人まち・すまいづくり 理事長）

安田 智則（前PTA会長） <オンライン参加>

岡田 邦弘（PTA会長）

事務局 立川 猛士（校長）、井上 博人（教頭）、大谷 則明（事務長）、

前川 紘紀（首席）、中原 章太（首席）、井濱 友輔（首席）、

二階堂 泰樹（進路）、尾崎 知佐子（企画）、我那覇 繁子（記録係）

1. 挨拶(立川校長より)

近況報告

- ・公立高校の希望者が減った中、561名の希望者に受験をしていただいた。
- ・受験生の多さは学校の取組みの結果だと考えている。

2. 学校からの説明

①大学合格状況について（二階堂）

- ・76期は旧カリキュラム最後。浪人を避けたい層が出る予想ではあったが、指定校は希望0であった。私立の希望も例年並みであった。
- ・共通テストの出願は97%で例年並みであった。8割の得点率の生徒が16,3%であった。
- ・京大10、阪大35、神戸大26（暫定）国公立は前期のみで150人が合格した。3月までやり切れるかが勝負。
- ・中期後期で神戸7、大阪教育大9、和歌山7と検討している。
- ・今年度は共通テストの翌日に集会を持ち、「学校中心、最後まで」「共通テストは通過点」という話をした。
- ・講習の参加率が高かった。

②令和5年度学校教育自己診断結果について（校長）

- ・生徒のICTの活用状況のポイントが5上がった。
- ・保護者の行事やHRの機会のポイントが5上がった。
- ・教職員の共有の取り組みは16ポイント上がった。
- ・教職員の運営参加、悩みの相談の体制ではポイントが下がっており、若い教職員等への取り組みや、情報共有が大切。

③令和5年度学校評価（案）ならびに令和6年度学校経営計画（案）

・令和5年度の計画の評価についてはおおむね達成できた。

・令和6年度の計画については、

(1)「2中間的目標の3(1)教職員の資質向上と学校運営体制の確立の分掌や学年・教科の連携」を現在の63%から85%に引き上げる。

(2)年間の遅刻者総数について、どうすすめるかを課題とする。

・働き方改革について、時間外勤務を5%削減する。

3. 質疑応答・討議

委員：他校の情報公開（大学の合格不合格の数）をどう考えるか。

委員：先生方の熱意ある指導が感じられた。大学のサークルの問題もあり、学力と同時に、倫理・規範意識を持つリーダーの育成が課題。

校長：人生どう生きるかを目標に。生活指導部長より話もしてもらった。現在、世間を騒がしている事案は「起こりうること」ととらえている。

委員：アンケート結果で、生徒指導方針の共有についての低さが気になる。

校長：髪色について研究室訪問やクラブの指導で先生たちの指導方針が異なっている。また、案件について慣れていない教員が多い。内規の改定等をすすめている。新たな事案にどう対処するか、社会人としてどう育てるかが課題。

委員：アンケートについて情報共有の項目のポイントも低い。

校長：コア会議でいろいろ決定しているので、どうしてもタイムラグが出る。

委員：生徒指導方針の共有が低いのでは。

首席：本校では昔体操服もなかった。また、制服導入を検討した時期もある。例えば奇抜な髪色の生徒に声をかけるかかけないかは教員にまかされている。

委員：服装についても相手に対してリスペクトが感じられる服装を着ているかどうかが大変。一律に「方針」となると難しい。

首席：本人の納得感の違いがある。

委員：経験年数の少ない教員が多い。生徒指導方針について共有し、話し合う機会が減っているのではと感じる。

首席：職員室に談話できるスペースを設けたりして、コミュニケーションが取れるように工夫をしている。

委員：高津高校の取り組みは国際交流センターにおいて、他行にも広く伝えていきたい。留学生が高津高校を訪問することで国際交流センターの会場の問題点は解決できる。

首席：高津高校は拠点校として、次年度も今の形で。令和7年度からは考えたい。

校長：一泊の費用を極力抑えて、経済的にしんどい生徒も参加できるような英語活用能力向上の企画を考えたい

4. その他

校長謝辞